

第28回日本遺伝性腫瘍学会学術集会学会報告

The 28th Annual Meeting of the Japanese Society for Hereditary Tumors

会長 藤原俊義 (岡山大学学術研究院医歯薬学域 消化器外科学)

田中屋宏爾 (国立病院機構 岩国医療センター)

Toshiyoshi Fujiwara (Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama University)
Kohji Tanakaya (National Hospital Organization Iwakuni Clinical Center)

事務局長 重安邦俊 (岡山大学病院 低侵襲治療センター)

Kunitoshi Shigeyasu (Minimally Invasive Therapy Center, Okayama University Hospital)

令和4年6月17日（金）から18日（土）までの2日間、岡山コンベンションセンターにおいて第28回日本遺伝性腫瘍学会学術集会（The 28th Annual Meeting of the Japanese Society for Hereditary Tumors）を開催させていただきました。

日本遺伝性腫瘍学会は1990年に発足した遺伝性大腸癌の研究グループに端を発し、日本家族性腫瘍研究会（1994年～）、日本家族性腫瘍学会（2005年～、2016年法人化）を経て2019年より「一般社団法人 日本遺伝性腫瘍学会」として、新たなスタートを切っています。

本学会の活動の主な目的は、あらゆる遺伝性腫瘍・関連疾患に関する診療・教育・研究に貢献することです。遺伝性腫瘍とその関連疾患に焦点を絞り、臨床医、基礎研究者、看護師、遺伝カウンセラー等のメディカルスタッフが一堂に会し、緊密に連携しながら学術活動を行う学会は世界的にみてもきわめて少なく、わが国では本学会が唯一の存在です。近年のがんゲノム医療や遺伝子診断の急速な進歩、遺伝性乳癌卵巣癌のリスク低減手術に対する社会的関心の高まり、遺伝性腫瘍に有効性の高い薬物療法の保険承認等と相まって、遺伝性腫瘍の正しい理解と適切な医療の提供に果たす本学会の役割について、多くの方々からのご支持を頂けるようになりました。また、年々飛躍的に会員数が増加し、2022年8月現在、2,000名を超えるました。

このように、昇龍の勢いの日本遺伝性腫瘍学会ですが、この度、第28回日本遺伝性腫瘍学会学術集会を、2022年6月17、18日の2日間、岡山大学学術研究院医歯薬学域 消化器外科学 藤原俊義先生と、国立病院機構 岩国医療センター 田中屋宏爾先生との二人会長で、岡山コンベンションセンターにて開催させていただきました。テーマは、「遺伝性腫瘍のルネサンス—追

い続ける夢—」です（図1）。昨年と一昨年は完全オンラインでの開催でしたが、今年は幸い、COVID-19第6波が終息してきましたので、Webと現地会場のハイブリッド方式で開催することとなりました。

会員数2,000名以上の学会の学術集会でしたので、ハイブリッド開催であることも影響し、準備に手間取ることもありましたが、チーム一丸となり取り組めたことは非常によい経験になりました。

いよいよ学会当日となりますと、多数の先生方が続々と会場に来られ（図2）、ほっと安堵いたしました。

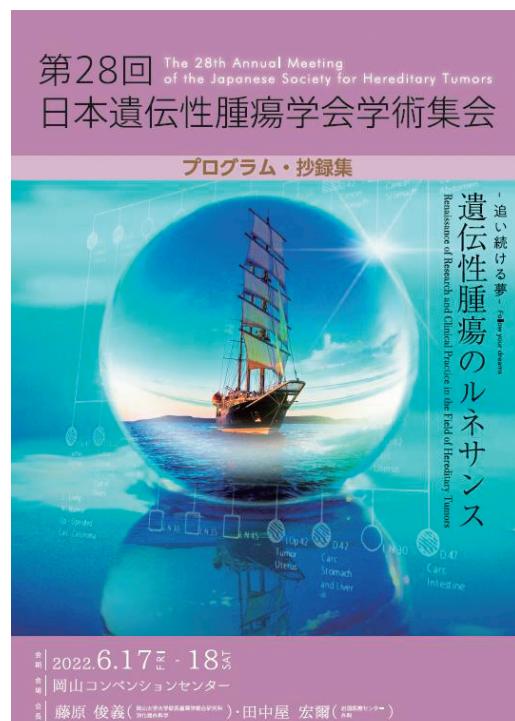


図1 学会ポスター



図2 会場ロビー風景

総参加者1,330名の内、現地会場には284名の方にご来場の上、非常に活発なご議論をいただきました。会場の雰囲気についてですが、座席の間隔を感染予防の観点から広めに取ったこともあり、会場全体を見渡すと充分聴講の方がいらっしゃるようにみえました（図3）。ご来場された方も、コロナ前を思い起こさせるような会場の雰囲気に喜ばれていたようでした。また、日本各地からご参集いただけましたので、久しぶりにお会いする方々も多いのか、ロビーで話が弾む様子を拝見できました。

海外招待講演では、University of California San Diego School of Medicine の Prof. C. Richard Boland に Lynch 症候群について（図4）、University of Toronto の Prof. David Malkin に Li-Fraumeni Syndrome について、リモートでご講演いただきました。特に、Boland 先生は Lynch 症候群の研究者のみならず、ご自身も Lynch 症候群の家系であり、患者としての視点からもお話しいただけたのが印象的でした。

特別講演として、国立がん研究センター東病院 消化管内科の吉野孝之先生に「固形癌におけるがんゲノ



図4 Prof. C. Richard Boland

ム医療の現状と展望」という題で、癌ゲノム診療の最先端につきご講演いただきました。

加えて、招待講演では、宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所の峯杉賢治先生に、「じゃない方」のロケット発射場物語、と題して、ロケット開発の歴史につきご講演いただきました（図5）。地域の方に支えられる内之浦宇宙空間観測所の物語をわかりやすくお話しただけました。

また、5年ぶりに公開市民講座を開催することができました。現地32名、ライブ配信視聴210名の参加者でした。Web 上でご質問も頂戴し、質疑応答ができました。

2日間の会期中、特に大きなトラブルなく、無事学術集会を終えることができました（図6）。幸い、学術集会の終了後、COVID-19クラスターの発生報告はございませんでした。アフターコロナ・ウィズコロナの最中の学会としましては、充分成功した会であったように思います。最終日に、皆様が楽しく満足されたお顔でお帰りになられているご様子が印象的でした。1年後の第29回遺伝性腫瘍学会学術集会で、また元気に再会できればと祈念しています。

最後になりましたが、第28回日本遺伝性腫瘍学会学術集会の開催に際して、岡山大学消化器外科学（旧 第一外科）同門ならびに関連病院の先生方、学術集会準



図3 第1会場風景



図5 峰杉賢治先生



図6 スタッフ集合写真

備・運営に携わっていただいた日本コンベンションサービス株式会社の皆様、消化器外科スタッフ、大学院生、秘書の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2022年8月22日受稿
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
電話：086-235-7257 Fax：086-221-8775
E-mail: toshi_f@md.okayama-u.ac.jp